

※ 本研究集会は、平成29年度「高専一長岡技科大共同研究助成」の支援を受けて開催するものです。

## 第2回高専一技科大AL研究集会 — ALへの戸惑いと悩みに対する解決策とは —

目的：前回の研究集会ではALの意義や方法等に関する認識を深めることができたが、第2回研究集会では、教員側がALに踏み込めない要因は何か、また高専においてALを広めるにはどうすれば良いのか等について、実践発表を基に議論を重ね、AL型授業で効果を上げる方法やALが広まる方策を探ることを目的とする。

日時：平成30年3月7日(水) 13:00 ~ 17:00 (受付12:30~)

場所：木更津工業高等専門学校 講義棟A 第2講義室(参加者人数等により教室変更の可能性あり)

日程：12:30 ~ 受付  
13:00 ~ 13:05 開会行事 (諸連絡含む)  
13:05 ~ 13:15 報告1：ALへの戸惑いと悩み—第1回高専一技科大AL研究集会  
および平成29年度全国高専フォーラムでのOSを基に—  
鈴木道治 (木更津高専 基礎学系)  
13:15 ~ 13:25 報告2：ある英語科教員のALに対する当惑—文法訳読法への拘り—  
小澤健志 (木更津高専 人文学系)  
13:25 ~ 14:05 グループ討議 I  
14:05 ~ 14:15 休憩  
14:15 ~ 14:30 発表1：産技高専(品川)におけるALを取り入れた課題研究授業  
山内一郎、篠原知子、広瀬義朗 (都立産業技術高等専門学校  
品川キャンパス)  
14:30 ~ 14:45 発表2：国語科における深い学びの実践—演劇を通じた作品分析  
吉本弥生 (石川工業高等専門学校 一般教育科)  
14:45 ~ 15:15 グループ討議 II  
15:15 ~ 15:30 休憩  
15:30 ~ 15:45 発表3：学生達の“その後”のためにこそALがある  
—2年次1科目だけのAL実施が卒業まで留年者をゼロにした—  
大木真 (熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科)  
15:45 ~ 16:00 発表4：知能情報処理を活用した学び合い支援システム  
高橋弘毅 (長岡技術科学大学大学院 工学研究科)  
16:00 ~ 16:30 グループ討議 III  
16:30 ~ 16:55 総括—AL導入の推進と拡大のために  
16:55 ~ 17:00 閉会行事 (諸連絡含む)  
18:00 ~ 20:00 情報交換会 (共同研究者間での総括を含む)

連絡先：木更津高専 小澤健志

アドレス：ozawa@h.kisarazu.ac.jp

参加申込：当日の参加も可能ですが、準備の都合上、2月16日(金)までに次のフォームよりご参加のお申し込みを頂ければ幸いです。

<http://kokucheese.com/event/index/498368/> ※「お申込みはこちら」から情報をご入力ください。

諸連絡：(1) グループ討議はワールドカフェ方式により行うため、受付時に茶菓代として100円を頂きます。

(2) 情報交換会の予算は4,000円を想定しておりますが、参加者数等により場所を決定し、3月初旬に、参加登録時に頂いたメールアドレスに場所等のご連絡をいたします。

プログラム詳細

12:30～	受付		担当
13:00～13:05	開会行事（諸連絡含む）	[05分]	小澤
13:05～13:15	報告1：ALへの戸惑いと悩みー第1回高専ー技科大AL研究集会 および平成29年度全国高専フォーラムでのOSを基にー 報告者：鈴木道治（木更津高専 基礎学系）	[10分] 発表10分	山下
13:15～13:25	報告2：ある英語科教員のALに対する当惑ー文法訳読法への拘りー 報告者：小澤健志（木更津高専 人文学系）	[10分] 発表10分	山下
13:25～14:05	グループ討議Ⅰ：(1) アイスブレイク (2) ALに対する悩み等 アイスブレイク後、ALに対する悩み等について意見交換等を行い、 出された項目を会場前のホワイトボードに付箋で貼る。これを実行委員で分類し、次のグループ討議のテーマとする。	[40分]	山下
14:05～14:15	休憩	[10分]	
14:15～14:30	発表1：産技高専(品川)におけるALを取り入れた課題研究授業 発表者：山内一郎、篠原知子、広瀬義朗（都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス）	[15分] 発表10分 質疑05分	加藤
14:30～14:45	発表2：国語科における深い学びの実践ー演劇を通じた作品分析 発表者：吉本弥生（石川工業高等専門学校 一般教育科）	[15分] 発表10分 質疑05分	加藤
14:45～15:15	グループ討議Ⅱ（ワールドカフェ方式による） 各グループで討議するテーマを決め、希望するテーマのグループで、 討議を行う。なお、「ワールドカフェ方式」で行うため、残る一人を決 めて頂く。	[30分]	加藤
15:15～15:30	休憩	[15分]	
15:30～15:45	発表3：学生達の“その後”のためにこそALがある ー2年次1科目だけのAL実施が卒業まで留年者をゼロにしたー 発表者：大木真（熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科）	[15分] 発表10分 質疑05分	山下
15:45～16:00	発表4：知能情報処理を活用した学び合い支援システム 発表者：高橋弘毅（長岡技術科学大学大学院 工学研究科）	[15分] 発表10分 質疑05分	山下
16:00～16:30	グループ討議Ⅲ（ワールドカフェ方式による） 各グループで、討議内容を深めたり広めたりする。なお、希望によ り、前回とは異なるテーマのグループに移動しても構わない。	[30分]	山下
16:30～16:55	総括ーAL導入の推進と拡大のために 各グループに数分の発表を行って頂き（発表は移動しなかった一人）、 今回の討議内容を共有する。	[25分]	山下
16:55～17:00	閉会行事（諸連絡等含む）	[05分]	小澤
18:00～20:00	情報交換会（共同研究者間での総括を含む）	[120分]	

## 第2回高専一技科大AL研究集会 報告および発表の要旨等

### 報告

報告1：ALへの戸惑いと悩み

— 第1回高専一技科大AL研究集会および平成29年度全国高専フォーラムでのOSを基に —

報告者：鈴木道治（木更津高専 基礎学系）

要旨：平成29年3月に行われた第1回高専一技科大AL研究集会において、参加者の中からアクティブ・ラーニングが勤務校では個人ベースで行われていて、学校全体に普及することが難しいと状況であることが判明した。そこで8月の高専フォーラムのOSではこの現象が他の高専でも同じようであるかどうか取り上げて状況を調査した。そこでこの発表では主にOSでのアンケートをもとに、高専においてALの現状を報告し、また各校での普及のための方策としてどのようなことが考えられるのかを提起する。

報告2：ある英語科教員のALに対する当惑— 文法訳読法への拘り —

報告者：小澤健志（木更津高専 人文学系）

要旨：発表者は、英語科教員としての経験は長いものの、これまでは「文法訳読式」により授業を行ってきた。昨今の状況の変化を受け、ALまたはAL型授業導入への転換に向け取り組んでいるところであるが、「読ませて、訳させて、語法や文法の説明を織り込んで」により知識を注入していくという古典的な教授法への拘りが強い。本発表では「なぜこのような授業方法から逃れられないのか」等について自己分析した結果等を報告する。

## 発表

<p>発表1：産技高専(品川)におけるALを取り入れた課題研究授業 発表者：山内一郎、篠原知子、広瀬義朗（都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス） 要旨：「課題研究」は、学生が自主的・継続的に学習する能力を育むことを目的とし、一般教養4年に新設された学科横断型選択科目（1単位）である。この科目では学生が課題を自主的に決定し、必要に応じて学習・フィールドワーク・調査活動を行い、研究を行う。平成29年度は21名の学生が理科、数学、社会の3分野に分かれ履修した。次年度は他分野が担当することで、ALの一般教養全体への浸透を図る。今年度の授業を振り返り、成果や課題について報告する。</p>
<p>発表2：国語科における深い学びの実践ー演劇を通じた作品分析 発表者：吉本弥生（石川工業高等専門学校 一般教育科） 要旨：本発表ではロールプレイの手法を用い、演劇を通して作品分析をおこなった授業実践を報告する。思考型確認プリントを用いて、夏目漱石の『こころ』を読解した上でチームを作り、各チームの解釈で演劇をおこなう。その際、各自異なる役割を与え、その立場から作品分析をおこなう作業を組み込んだ。作品を深く読解する能力を養うためである。発表者はこれまでに思考型の国語科教育を提言してきたが、今回の実践は、その延長線上にあり、コミュニケーション能力育成と深い学びを同時におこなうものである。</p>
<p>発表3：学生達の“その後”のためにこそALがある ー2年次1科目だけのAL実施が卒業まで留年者をゼロにしたー 発表者：大木真（熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科） 要旨：本科2年生の専門科目でALを実施した後、卒業まで留年者ゼロのクラスがあった。この学生達はどういった心構えでAL型の講義を受け、ALから何を学び、その後どのように活かしていたのかを追跡調査した。その結果、様々な存在するALの実施手法そのものよりも、学生達にどのような気持ちになってもらうかが、本質的に大切であると分析した。これらについてのまとめを、美点だけに偏らず、悪かった点、反省点を交えて報告する。</p>
<p>発表4：知能情報処理を活用した学び合い支援システム 発表者：高橋弘毅（長岡技術科学大学大学院 工学研究科） 要旨：学び合いによるアクティブ・ラーニングは、良好な教育効果を有するとして報告が近年多数行われており、協働学習を支援するICTシステムも登場している。本発表では、学習者の個性によって異なる適切な交流を提案する知的な Computer Supported Collaborative Learning (CSCL) システムのプロトタイプについて言及し、それを実現するための学習者の個性に関する検討結果について報告する。</p>